

《医学部》保健学科検査技術科学専攻

ディプロマ・ポリシーに特に強く関連するものは○、関連するものは◎を記入する。

ディプロマポリシー		【1. 知識・理解】	【2. 乳用的技術】	【3. 慎重・専門性】	【4. 総合的な学習経験と創造的思考力】	科目的教育目標
科目名		(1)幅広い教養と専門分野に関する学問的知識を修得している。 (2)人間性・科学性及び国際性を身につけ、医療の担い手としての基本的能力を有する。	患者・家族等及び医療チームのスタッフと円滑なコミュニケーションを取り、各職的評議に基づいた基本的能力を持って医療人としての役割を果たすことができる。	各専門分野で指導的立場に立ち、高度化・専門化する医療を支え、保健学の発展に寄与することができる。	基礎理論から高度な臨床応用へ至る系統的かつ実践的な学習経験を通じて、医療・医療・医療分野の多様化するニーズに対応し、最新の技術や医療情報に基づいて自らの能力・専門性を高めることができる。	
人間	人間関係論	○		◎	○	社会生活において駆使される対人コミュニケーションのうち、1)対人コミュニケーションにおける自己、2)他者への働きかけ、3)対人関係の展開、に対する社会心理学的基本の知識を理解する。
	生化学I	○				生化学は生物を構成する物質の化学であり、生命・病気の理解に必須の学問である。本講義では、生物の基本となる生体高分子(核酸・タンパク質(酵素)・糖質・脂質)やその構成単位(ヌクレオチド、アミノ酸、脂防酸などの)の基本構造や性質について理解させる。また、細胞膜の透性障害の流れ(複製、転写、翻訳)について理解させる。
	カウンセリング	○	○	○	◎	カウンセリング(臨床心理学)の理論と実際の基礎を学習すること目標とする。
	解剖生理学 I	○	◎			細胞の構造と機能、消化器、呼吸器の働きを理解する。
	解剖生理学 II	○	◎			循環器、腎臓の構造と機能を理解する。血液及び体液の構成成分とその機能を理解する。
	解剖生理学 III	○	◎			骨、筋肉ならびに内分泌器官の構造と機能を理解する。
	解剖生理学 IV	○	◎			神経系の構造と機能、感覚機能、生体の防御機構、生殖器の機能などに初期発生を理解する。
	衛生学	◎				人の健康と環境の関わりを学び、環境保健学の理解を深める。また、衛生学・公衆衛生学の基礎を広く教授する。
	保健学概論	○	○			疾患予防や保健増進から先進医療にわたる幅広い視野と教養を身につけ、人の健康に関するさまざまな要因に高い関心をもち、理解するための取組みができる。
	医療経済論	○		○	○	医療の特属性を理解した上で、病院組織ならびに地域医療システムについての理解を深める。
学科共通科目	社会福祉概論	○	○	○		社会福祉の基本理念を歴史的な歩みや現状を通して、1人の生活者として福祉を深く理解していくことを目的とする。
	ボランティア活動		○	○	◎	ボランティアの概念、目的、意義、現状や問題点を学習した後に、学生が本体的・実践的の下にボランティア活動を実践する。ボランティア活動をもとひとつの価値を育むコミュニケーションであることを学ぶ。ボランティア活動による地域連携を図る。
	放射線衛生学	○	○			自然および人工放射線による被曝と被曝軽減の必要性、対策について理解する。医療従事者として必要な放射線防護の考え方を理解する。
	救急医療論	○	○			救急医療の基礎的知識と専門的な知識および対処法について理解する。
	介護実習			○	○	医療報酬施設における職員の活動状況を見学することや、対象者に接することで、医療報酬施設の役割を学び、対象者の生活の様子を知る。
	チーム医療論			○	○	医療の現場でチームを組む他の専門職種の機能、役割を理解する。多職種間でのコミュニケーションの重要性を理解する。チーム医療を行って、自らの職種の役割、責任について検討する。
	教育指導論	○			○	教育指導を実施する基本的知識として、学習理論に基づき、教育指導的目的、意義、形態及び方法について理解する。
	薬理学	○	○			病気の治療・予防目的とした薬物療法を効果的に、かつ安全に行なっていくには、医療に関わるスタッフ全員が薬に対する正しい知識と理解が必要である。本講義では、適正な薬物治療に参画できるようになるために、薬の基本的性質と作用について学ぶ。
	栄養学	○	○			栄養学の基礎を学ぶことを目的とし、生体内部からエネルギーや物質を取り入れて利用し、正常な生活を営む過程を理解する。
	精神保健	○			○	人間の心の健康を成長発達、生活と適応と危機の面からとらえ、現代社会における精神保健の課題を考える。
健康	免疫学 I	○				免疫力とは、病気を免れる「排除する」という意味である。生体の病原菌や非自己のものを認識し、排除する巧妙な仕組みについて学ぶ。しかし、免疫反応が行き過ぎによって有害な反応(アレルギー)、自己免疫症を引き起こすことがある。それらの機序についても学ぶ。
	病理学 I	○	○			病気の原因とその本態を知る。
	情報処理・統計学	○		○		前半では、コンピュータについての基礎知識と医療情報システムに対する基礎知識と方針理解をする。後半では、医療分野で必要とする医療統計学の基本的概念と考え方を理解する。卒業研究などで医療データをコンピュータを用いて解析するように医学統計学の知識を身につける。
	情報処理・統計学演習	○	○	○		保健学研究や卒業研究などにおいて、コンピュータを用いて保健学データの統計解析を自分でできる。また、ワープロ、計算機、インターネットなどの演習を行い、卒業論文をパソコンを用いて書ける。
	生化学 II	◎	○			生化学は化学物質が構成されており、生命現象はその化学反応との相互作用によって表現されている。この生命現象の化学を、物質代謝の観点から理解する。
	生化学実習	◎	○			生化学領域で使用される基本的な方法を、実習で体験し原理や操作を習得する。蛋白質の電気泳動や酵素活性の測定などを通し、生体試験の取り扱い方を得る。
	保健学	○	◎		○	健診問題の変遷や健康課題を概観し、健康管理を支援するための地域保健活動を理解する。
	環境衛生学	◎	○		○	人の健康に及ぼすさまざまな環境要因をとりあげ、健康影響とその対策とは、環境問題の今後の課題について教授する。
	保健環境学実習	◎	○		○	健康に及ぼす生活上の因子について、身近な環境測定を通して理解を深めることを目的とする。
	臨床化学 I	◎	○	○	○	疾病的診断や治療などに、血清や尿中の各種成分濃度の測定が重要である。臨床化学は、主に血清中の各種成分濃度と疾患とを関連させながら、測定原理、測定方法、およびその意義などに関する知識を習得する。
専門科目	臨床化学 II	◎	○	○	○	疾病的診断や治療などに、血清や尿中の各種成分濃度の測定が重要である。臨床化学は、主に血清中の各種成分濃度と疾患とを関連させながら、測定原理、測定方法、およびその意義などに関する知識を習得する。
	臨床化学実習	◎	○	○	○	臨床化学で学習した知識を基に、生体試料(血清)に含まれる特定成分濃度の測定原理、測定方法および実際の技術を学得する。また、測定の実際の操作および大量の検査データから必要な情報の収集法を習得する。
	放射性同位元素検査技術学	◎	○	○	○	化学的な操作から原子の構造や放射線との関係、さらに同位体と核種との関連性などについて理解する。放射化学の基礎知識や基礎概念から元素化学に関する化合物離と純度検定を知り、放射性核種の応用面(物質と放射線の相互作用や、エネルギー吸収による化合物への応用)や、その利用(放射化学の核医学への利用などを理解する)。
	放射性同位元素検査技術学実習	◎	○	○	○	放射能の安全管理に関する知識を習得する。アイソトープ総合センターの管轄領域内における安全管理を理解し、放射性物質から放出される放射線を、測定機器を用いて測定する方法を習得する。
	生理学実習	◎	○			人体が示す生命現象と生理現象と様々な疾患における人体の構造と機能を理解するために、生体構成成分の構造と機能を調べる方法、人体の生理機能の測定原理とその方法、および脳膜における生体の変化を観察する方法などを実習を通して学習する。
	生理検査 I	◎	○	○	○	心電図、心エコー図、心音図、心機能図等の心血管系の検査検査について、基本的知識の講義と共に視聴覚教材を利用して、多面的な教育を行う。

	機能系検査学	生理検査学Ⅱ	◎	○	○	○		臨床検査、筋電図、神経伝導速度等の生理系の生理検査について、基本的知識の講義と共に視聴覚教材を利用して、多面的な教育を行う。
		画像検査学	◎	○	○	○		本教科では、呼吸機能検査、超音波を利用した画像検査について、教科書やアラスを用いて講義し、ビデオ等の視聴覚教材を利用して、多面的な教育を行います。
		生理検査学実習	◎	○	○	○	◎	生理検査に必要な技術の習得、とくに医療過誤を防止し、正確な検査データを作成することを目指す。
		画像検査学実習	◎	○	○	○	◎	画像検査に必要な技術の習得をめざす。
		臨床画像検査学	◎	○	○	○		前半では、超音波診断装置および磁気共鳴画像診断装置の構成、動作原理、基本性能などを理解する。後半では、磁気共鳴断層撮影の原理と撮影方法の基礎から実際のパラメータ設定をめざして実用的な知識を習得する。さらに疾患や部位ごとの撮影方法や得られる所見及び情報について理解することも目的である。
		分析化学	◎	○				化合物を利用して医薬品や環境試料などを分析するための基礎的知識を習得することを目指す。
専門科目	形態系検査学	解剖学実習	◎	○		○	◎	解剖学の基礎知識と術業検査学分臨床血液学の専門的知識の概要として、人体の形態学や臓器の正常組織との関連を重視して、組織細胞の形態的意義は生理的機能に及ぶ広い範囲の知識と概念を修得することを目的とする。
		病理学Ⅱ	◎	○	○	○		病的状態、とくに腫瘍における組織学的所見を理解する。
		病理学実習	◎	○	◎	○	◎	病理診断は最終診断であり、他の種々の検査にもまして重要である。病理診断の際に必要な組織標本の作製技術の習得を目的とする。
		病理検査学	◎	○	○	○		細胞診断学と病理組織標本の作製について学ぶ。
		病理検査学実習	◎	○	○	○	◎	病理実習の基礎のもとに、病理組織標本作製のうち、特に特殊染色の習得を目的とする。また、細胞診では、主に個人科および呼吸器領域において得られる良性細胞と悪性細胞の鑑別およびクリーニングの基礎的技術の習得を目的とする。
		微生物学Ⅰ	◎	○	○	○		感染症の原因となる微生物の形態、代謝、増殖、遺伝の特徴を学び、微生物検査および臨床検体の安全な取り扱いに必要な基礎知識を身に付ける。
		微生物学Ⅱ	◎	○	○	○		感染症は微生物の病原力がヒトの感染防御能を超えた場合に発症することを理解し、微生物の薬剤耐性化のメカニズムを学び、感染症の化学生理的基本な考え方を知る。病原性細菌のうちグラム陽性球菌、グラム陰性球菌による感染症の微生物検査法に関する知識を修得する。
		臨床微生物学Ⅰ	◎	○	○	○		感染症の原因となる細菌の生物学的性状や病原性的特徴、引き起こされる感染症についての基礎知識を修得し、細胞診の検査と検査結果の解釈法、診断・治療における検査の重要性を理解する。
		臨床微生物学Ⅱ	◎	○	○	○		感染症の原因となる細菌、真菌、ウイルスの生物学的性状および病原性的特徴、引き起こされる感染症についての基礎知識を修得し、微生物検査の概要と検査結果の解釈法、診断・治療における微生物検査の重要性を理解する。
		微生物学実習	◎	○	◎	○	◎	病原性細菌および真菌を用いて、微生物検査の基本的技術である滅菌・培養地や試薬の作製法、無菌操作法、除菌法、培養、同定、病原性細菌に対する感受性試験などの実習法、除菌法、培養地や試薬などを用いた微生物の臨床検査を身に付ける。また、補助診断法の概要と検査結果の正しい解釈法を身に着ける。臨床実習では、臨床検体を用いた検査を見学・体験し、診断における検査の重要性を理解し、問題解決能力を高める。
		医動物学	◎	○	○	○		寄生虫と宿主から寄生虫疾患の意味を理解し、その感染様式について生命の相互作用や進化の問題も含めて考察できるようになる。またこれに隣接して、寄生虫と宿主の相互作用を理解する。また、寄生虫と虫についての適切な診察が選択されるようなる思考を身に付ける。また、補助診断法として有用な免疫診断法についての理解を深める。
		医動物学実習	◎	○			◎	実習を通して寄生虫疾患の理解を深め、寄生虫と宿主の相互作用を理解する。また、寄生虫と虫についての適切な診察が選択されるようなる思考を身に付ける。また、補助診断法として有用な免疫診断法についての理解を深める。
		臨床血液学Ⅰ	◎	○	○	○		血液疾患の診断に必要な検査法の意義や方法と疾患との関係を理解させる。
		臨床血液学Ⅱ	◎	○	○	○		主として出血性疾患の理解(賀川、中村)と、血球の産生と、赤血球、白血球の機能ならびにこれらの血球系の疾患を理解する(濱野)。
		臨床血液学実習	◎	○	○	○	◎	血液形態および止血に関する検査手技の習得と検査法の臨床的意義の理解、さらに臨地実習を通じて、基本的手技と診断上の重要性を体得させる。
		免疫学Ⅱ	◎	○	○	○		輸血と移植免疫に必要な基礎知識について学ぶ。
		免疫検査学	◎	○	○	○		免疫学の検査の意義を学ぶために、現代免疫学の理論的背景を理解する。
		輸血検査学	◎	○	○	○		輸血検査の意義を学ぶために、輸血学の理論的背景を理解する。
		免疫検査学実習	◎	○	○	○	◎	免疫血清学的検査の基本手技と診療上の重要性を、実習を通して体得せる。
		輸血検査学実習	◎	○	○	○	◎	輸血検査の基本手技と診療上の重要性を、実習を通して体得せる。
		分子遺伝学	◎	○				生物における遺伝情報の複製や伝子発現の調節について学び、疾病の機序や検査技術科学における遺伝子検査法の原理を理解するための基礎知識を得る。
		遺伝学	◎	○				生物の遺伝的な現象を理解し、応用に結びつく遺伝学の基礎知識を習得する。
		遺伝子検査学Ⅰ	◎	○	○	○		さまざまな遺伝子検査技術の原理、正確かつ安全に検査を行なうためには必要な基本的手法、および検査結果の正確な判断に必要な精度管理等を学び、遺伝子検査技術に関する基礎知識を得る。また、遺伝子検査技術が医療や医学研究にも利用されることを知る。
		遺伝子検査学Ⅱ	◎	○	○	○		実習を通して遺伝子検査の基本的な手技を身につけ、基礎技術および検査結果の解釈に関する理解を深める。新しい検査技術の開拓研究や遺伝性疾病の原因に関する研究についての講義を通じて、遺伝子検査技術への関心を高める。
専攻共通		検査機器総論	◎	○	○	○		臨床検査においては、多くの精密機械や分析機器が用いられている。そこでこれらの機器の原理、構造、使用法及び保守管理などについて教授する。
		医用工学概論	◎	○	○	○		医用における工学の役割を理解し、生体情報を収集・分析や治療に使用される医用工学の機器の原理、構造、特徴、安全部門に於ける学問知識を修得している。※この学科のなかには幅広い教養を専門分野に於ける学問知識が含まれています。
		医用工学実習	◎	○	○	○	◎	将来、臨床機器を駆使するところを想定して、エレクトロニクス回路の応用、医療機器の構造、医療機器等との適合性試験、特性試験などの実験を通じて、医用技術の構造と安全確保の重要性を習得する。 ※この学科のなかには幅広い教養を専門分野に於ける学問知識が含まれている。
		臨床医学総論	◎	○	○	○		疾患の原因、各種疾患の概要につき講義する。
		臨床病理学総論	◎	○	○	○		神経筋疾患、呼吸器疾患、内分泌疾患、動脈硬化病変等と検査の関連性を講義し、疾患の病態・生理と検査成績の変化について講義する。
		臨床検査総論Ⅰ	◎	○	○	○		臨床検査とは何か、医療における臨床検査技術の役割や他の医療職種との関連性、強調すべき知識を身につけよう。また、各検査の専門的な検査を行なう前に実施する一般検査から、科学的な検査項目について、その測定意義及び検査法を学習する。
		臨床検査総論Ⅱ	◎	○	○	○		尿、便、體液、腹腔液など、血液以外の生体材料を用いる一般検査についての知識を学習する。
		臨床検査総論実習	◎	○	○	○	◎	尿、體液、穿刺液等を対象とする一般検査や緊急検査中の特に、尿の化学検査について実習を行なう。また、臨床検査実習に必要な採血についての手技を充分に習得できるようにする。
		検査管理総論	◎	○	◎	○		病院検査部の現況と将来展望および検査業務遂行に必要な技能の習得。

専門科目	専攻共通	医療法規	◎	○	○	○	臨床検査技師がコ・メディカルとして業務を行う上で守らなければならない医療法規の範囲と、他の関係法規とのつながりを把握させることを目的とする。
		臨床技能実習	◎	○	○	○	4年次に実施される病院での臨地実習において必要な、基本的技術や知識を習得することを目的とする。
		電子計算機概論	◎				コンピュータの基本的なアーキテクチャ、及び情報科学の基礎的な学問について講義すると共にC言語による基礎的なプログラム作成能力を実習を通して習得させる。
		電子計算機概論実験	○				電子計算機を用いた検査技術の原理・手法を深く理解することで、より良質の結果が得られたりし解析方法改良の発想が生まれる可能性がある。生体情報を信号処理とデジタル画像処理の実際を体験に基づき修得することを目的とする。
		専門外国语	○	◎	○	○	臨床検査技術に関する専門英語および検査室での英会話に習熟し、臨床検査技術に関する最新の情報を国内外から取得する方法を学ぶことにより、国際性を身に着ける。
		病態栄養と臨床検査	◎	◎	○	○	近年、糖尿病、脂質異常症、痛風等の代謝疾患が増加し、動脈硬化のリスク因子となることが多くなっています。本講義では、これらの代謝疾患の成因について、栄養学的観点から解説(消化・病態解析)に有用な臨床検査法についても教授する(講義)。(オムニバス方式)
		健康食品学	◎				医学・栄養学・食品学の科学的知識をもとに、保健機能食品およびいわゆる健康食品の機能・効果・影響等について教授する。さらに、食事と疾患の関係、健康食品と薬の相互作用、健康食品や食品添加物の安全性や用い方を教授することによって、対象者の健康状態に応じた健康食品の利用法を適切に判断し、指導できる能力を養う。
		健康食品法規	◎		○		健康食品法規では、健康食品に対する安全性の確保、品質、販売方法等に対する法規について学ぶ。
		国際医療活動論		◎	○	○	This course is an introduction to understand of the concept of International Nursing and health, the global perspectives on health, and the global cooperation and collaboration of nursing and other health care providers.
卒業研究			○	○	○	○	臨床検査分野のテーマについて、実験計画を立案し、実験を行い、それをまとめる作業を行うことにより、研究態度、独創的思考を養うことを目的とする。